

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-275	A-277	17-007 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol Use and Cardiovascular Disease Risk in Patients With Nonalcoholic Fatty Liver Disease. 非アルコール性脂肪肝者における飲酒量と循環器疾患リスク		
執筆者		
VanWagner LB, Ning H, Allen NB, Ajmera V, Lewis CE, Carr JJ, Lloyd-Jones DM, Terrault NA, Siddique J.		
掲載誌		
Gastroenterology. 2017 Nov;153(5):1260-1272.e3. doi: 10.1053/j.gastro.2017.08.012. Epub 2017 Aug 9.		
キーワード		PMID
米国、中年、非アルコール性脂肪肝、飲酒、循環器疾患		28802566
要 旨		
目的： 非アルコール性脂肪肝患者において中等量飲酒と循環器疾患リスクの関連を検討した。		
方法： 1985-6年に米国4カ所の18-30歳5,115人（黒人および白人）を対象とした前向きコホート研究の参加者のうち、25年追跡調査時のCT評価にて非アルコール性脂肪肝（<51Housefield Units）と診断された570人（平均年齢50歳）について、25年追跡時の冠動脈石灰化（Agatston score>0）や心臓超音波所見（E/A、E/e、流速等）とベースライン、15、20、25年追跡時に評価した飲酒習慣（非飲酒者（全追跡期間にわたり非飲酒）と飲酒者（いずれかの追跡時に週あたり男性1-21杯、女性1-14杯の飲酒））との関連を分析した。		
結果： 非飲酒者と比較して、飲酒者は肥満、糖尿病、メタボリックシンドロームの有病者が多かったが、肝臓のCT値に差を認めなかった。冠動脈石灰化は飲酒者にやや多く、左室拡張期流速は飲酒者で高かった。しかし、多変量調整後は、両群間に、循環器疾患危険因子や前述の潜在性循環器疾患の指標に差を認めなかった。		
結論： 中年期の非アルコール性脂肪肝者において飲酒習慣は循環器疾患危険因子や潜在性循環器疾患との関連を認めなかった。		